

# 幼稚園のある一日の指導



渡 辺 貞 子

## 一、はじめに

幼稚園における教育の単位は、いうまでもなく一日であり、一日の指導をみていくことは、ある意味では、幼稚園教育のすべてをみていくことにもなる。というのは、指導のすべての条件が一日の保育の中に包含されているからである。このようなことの理論的側面については別にゆずるとして、わたくしはごく平凡な一日の指導の実践のありのままを記すことにより、わたくし自身の反省の資料としたいと考えている。

そこで、最初に、簡単に実践記録を記述した日の「予定」と「ねらい」および「幼児の活動の一覧表」を参考のため、つぎに記したい。

なお、この実践の記録をとりあげた月日は昭和四十一年十二月八日で、対象は、五歳児一年保育三十二名で、四日市市立海蔵幼

稚園児松組の担任の幼児である。

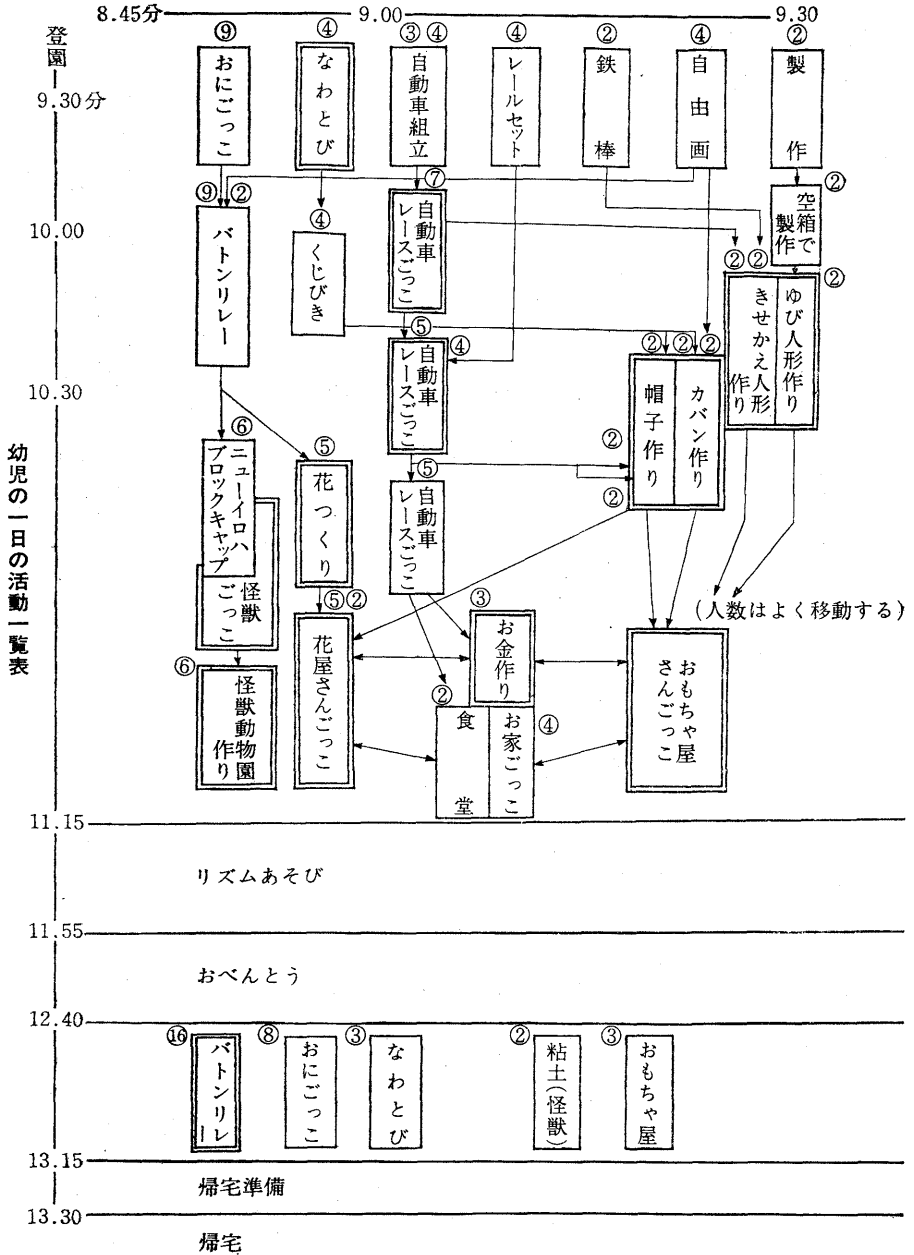
### 1 この日の予定

これまでに幼児たちが、いろいろつくっては遊んだ品物が、たくさん集まってきたので、今日は、幼児たちと話し合っ、お店屋さんごっこをしたいと思います。

### 2 この日のねらい

- ・五、六人のグループでいろいろ話し合って遊ぶ。
- ・お店屋さんごっこに必要な品物を話し合っつくる。
- ・グループの中で役割をきめ、きめられた役割を守り、交代しあって遊ぶ。
- ・楽しくリズム遊びをする。
- ・寒さに負けず、元気に遊ぶ。

## 二、実践例



は教師が参加

→は幼児の移動

○の数字は幼児参加人員数

実践例については、時間を単位として記述していく。

八・四五—九・〇〇

## 登園

N夫「おはようございます」と、元気に登園。自分の出席カードに印をおし、ストープにあたる。工作服を今日は忘れたから着ないことを報告する。

I夫他二名つづいて登園。身のまわりの始末をすませ、すぐに三名の幼児はテラスへ出て、「たかたかとうばん」というおにごっこをはじめ。ストープにあたっていたN夫も仲間に入り、ジャンケンポンで鬼をきめる。「タイムあり」「空中なし」と二つのルールを鬼がいうと、「タイム何回にする」「3回までいいことにしよう」と話し合ってルールをたしかめて遊んでいる。

そのうちに部屋の中まで逃げこんでくる。この遊びは高いところの上った幼児には、鬼は「どん」とつけない。地面におりた幼児だけを、鬼はつかまえてもよいという遊びなので、部屋の中での高いところといえば、椅子の上ののらなければいけない。危険だから注意しようと思ったが、すぐにテラスへかけだしていったので注意せずに遊びをつづけさせた。

つぎつぎと幼児五名登園、おにごっこに入る。たくさん入ったので、ジャンケンのしなおしで鬼をきめている。教師がストープをくべていたら、四名登園。なわとびの紐をもって外へ出る。こ

の間から、なわとびがとべるようになったF子は、とくいになってし子に教えているが、なかなかし子はとべない。他の二名はよくとべるので問題はないがし子だけが残念そうなので、教師はそばへ行って一緒にとんでやる。紐をし子の長さに調節してやると、どうにかとべる。「とべるとべる」と友だちと教師とで喜んでやると、うれしそうにし子は何度もくりかえしとんでいる。

九・〇〇—九・三〇

## 鉄棒

A男B男C男の三名がつれだつて登園。つづいてD子E子登園。D子E子は、この間から鉄棒で足かけまわりや、さか上がりができるようになり、友だちとよく競争している。今日もさっそく競争するのだと鉄棒へ行き、二人でまわりっこをはじめ。

## 自動車レースごっこ

A男ら三名は、昨日遊んだ自動車レースごっこに興味をもち、工作服に着替えながら、今日も自動車レースごっこをしようと同談している。昨日一緒に遊んだF夫がまだこないの、三名は、F夫のくるのをまっている。

登園してきたH男ら四名は、レールセットを組み立てはじめ、「今日はひっこみ線をこちへつけようか」「駅をこちへ置こうか」など話し合いながら、一組のセットを共同で組み立て、一つの遊びをしているので、教師は、なわとびをつづけた。

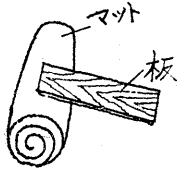
## なわとび

し子がやっとなべるようになったので、友だち同士、同じとびはじめたり、交代でとんだりしたらどうだろうと、話しかけておいて部屋へ入った。

## 自動車レースごっこ

自動車レースごっこでは、このあそびに使う一台の自動車を大きくみ木で、二人の幼児が協力して組み立てている。その間にC夫が出発点の斜面をマットと板とでつくっている。そのとき、F夫ら三名が挨拶しながら登園してきた。C夫はF夫に「今日もレースごっこするやろ？」と誘っている。A男「僕たちで今自動車や、コースつくつとるのだよ」と知らせている。F夫ら三名は「入れて」と今日も仲間に入り、F夫は、さっそく、大つみ木を三個並べて「決勝線」といってコースをつくる手伝いをする。

コースは図のようにできあがった。前日と同じである。この遊びは、大きくみ木で自動車をつくり、遊んでいる間に発展してきたのである。斜面を利用して、力の加え方によって、車がどれだけの距離を走るかといった遊びなので、転んだり、危険性はないかと、昨日はみていたが、危険な場面がみられず、乗り方、力の加え方のちがいによって走る距離がちがってくることを、車をまっすぐに置いて走らせないと、まっすぐ走



る。A男「僕が用意したスタート」という。B夫「僕が自動車の乗る時はだれかいてくれる？」とM夫が「入れて」と仲間に入り、A男が「出発の合図は交代でいうたらええが」ということになり、「僕一番」「僕二番」とスムーズに出発点のところへ順番に並んでレースごっこがはじまる。話し合いによって「審判」「ほろびをあげる人」「出発の合図をする人」ができた。ルールとしては「足を使わないで車を決勝線まで走らせる」「合図があつてから発車する」「つぎの幼児の出発点まで、自分の使った車を運ぶ」ということになった。幼児の中からでてきたこれらのルールや役割がよく果たされるか、役割が果たされて、この遊びが楽しくなるのだということを知らせながら遊ばせたいと思った。

らないことなどに気づいているので、この遊びにもっと役割やルールができてきて、複雑な遊びへ発展させてやろうと思つてみると、B夫が「先生、審判になつて」と教師も仲間に入ること、を、さいそくする。

教師「審判つてどうするの？」A男「決勝線まで足を使わないで車に乗つていったかどうか見とるの」B夫「足を使わないで優勝線まで行つたら優勝」つて審判がいうの」C子「優勝した子にはね、輪投げの輪を頭にのせてあげるの」教師「だれがのせてあげるの」C子「私のせてあげるわ」教師「そう、Cちゃんごほろびあげる人ね」教師「出発する時はだれが合図するの？」と話し合つていたら、登園してきたM夫が「入れて」と仲間に入り、「僕が用意したスタート」という。B夫「僕が自動車の乗る時はだれかいてくれる？」とM夫がA男の方を向いていう。A男が「出発の合図は交代でいうたらええが」ということになり、「僕一番」「僕二番」とスムーズに出発点のところへ順番に並んでレースごっこがはじまる。話し合いによって「審判」「ほろびをあげる人」「出発の合図をする人」ができた。ルールとしては「足を使わないで車を決勝線まで走らせる」「合図があつてから発車する」「つぎの幼児の出発点まで、自分の使った車を運ぶ」ということになった。幼児の中からでてきたこれらのルールや役割がよく果たされるか、役割が果たされて、この遊びが楽しくなるのだということを知らせながら遊ばせたいと思った。

## 自由画

この遊びをしている間に、四名の幼児が登園してきて、自由画帖とクレパスをもちだし、自由画をかいているが、T子は挨拶のあと、何か話があるらしく審判をしている教師のところへくる。

「先生、明日休ませてね」「どうして?」「病院へお薬をもらいにいくの」「そう、まだおかげがなおらないのね。今日は外へ出て遊ばない方がいいわね」「Tちゃんもレースごっこしない?」「しない」とT子はストープにあたってレースごっこをみている。そのうちに自由画帖とクレパスをもちだして、絵をかきはじめた。今日は少々元気がないので注意してあげなければいけないと思った。

## 製作

製作コーナーでは、登園してきた幼児二名が前日のつづきのあき箱で、飛行機、ロボットを製作している。この二名は製作意欲が高まっており、とてもよく工夫してつくっている。

一方テラスでは、おにごっこをしているグループの三名が、また部屋へ逃げ込んで、かけまわっている。鬼におっかけられ、あわてて椅子にかけ上がるので、危険だから外だけで鬼ごっこはするように注意した。逃げまわっていた幼児は、鬼に「タイム」といって外へ出る。鬼は大きな声で、「逃げるのは外だけ、部屋の中は、なあし」と提案した。その意見をみんながみとめて、テラスと下駄箱の前だけで遊びがなされ、しだいに落ちついていっ

た。なわとびの幼児はまだつづいている。

## 九・三〇一〇・〇〇

### 自動車レースごっこ

レースごっこはまだつづいている。役割の交代はみられないが、役割はよく守って遊んでいる。C子はK子に自分の役割をゆずっておいて、ポストと古はがきをもちだし、C子「先生、私、入場券渡し役になるわ」といって、男児に「入場券渡します。もらったら発車する前にここに入れてください」といっている。「Cちゃん、いいことに気がついたわね」とほめてやると、うれしそうな顔で「優勝した子はKちゃんに輪をもらってください」と、自分が役を変ったことをみんなに知らせている。みんなはC子の発案を自分らのものとして遊びにとり入れ、「そうしよう、そうしよう」と一層遊びが楽しくなる。一度に複雑な遊びは無理だが、今日は昨日よりも、入場券をもって遊ぶようになった。このC子が入場券を渡すだけじゃなしに、入場券を売る人になった。もっとすばらしいと思ったが、今日はせっかくC子自身が渡す役だといっているのだから満足させてやって、よいチャンスがあれば、入場券を売買して入場するというように話し合いたい。

## 製作

教師は審判をつづけていたら、製作コーナーから、G夫が飛行機をつくれたのをもって見せる。教師「いい飛行機ができた

のね」A夫「上手やなあ」と見ていたがレースごっこをつづけ  
る。そこへロボットをつくっているL夫が「先生、小さい箱を二  
個ほしいの」といってくる。「何にするの?」「ロボットの手にす  
るの」「段ボールの箱の中にあるでしょう」「ううん、もうない  
の、大きい箱ばかりなの」「そう、じゃ見てあげましょう」と  
審判をA夫にたのんで教師は製作コーナーへいく。

おにごっこ→バトンリレー

ちょうど外では、鬼ごっこがおわり、バトンリレーがはじまっ  
た。自由画をかいていた二名の幼児も仲間に入ろうと、運動場へ  
かけている。なわとびをやめて、四名の幼児が、リレーにきかん  
に声援をおくっている。バトンの色で、水色組、白色組に分かれ  
て、二列に並び、低鉄棒へタッチしてからターンし、つぎの子に  
バトンを渡している。男児と女児の数が両組同数でないので、き  
ちんと分けてやりたいとも思った。だが、箱を探そうといってい  
るのでリレーはそのままつづけさせておいて、あき箱を探しに製  
作コーナーへいく。適当な箱がみあたらないので困ってしまう。  
やっどマジックの入っているのをあき箱にして使うことにした。

## 製作

この製作コーナーでは、これまでにあき箱を使って、カメラ、  
飛行機、8ミリ映写機、お家などつくって遊んだ品物が、たくさ  
んたまってきた。これを教師は作品のまどめとしてお店屋ご  
っこをしたいと思つて、いろいろなおもちゃをつくってくれるよ

うにと、色画紙や、大ききのちがった画紙を前日から用意した。  
しかし二名の幼児しか遊んでくれない。何となくあせりのよう  
ものを感じたが、何ともしかたがないのでチャンスをねらうこと  
にした。L夫とG夫がつくりあげた飛行機やロボットをもって外  
へ遊びに出たら、鉄棒で遊んでいた幼児二名が、G夫やL夫につ  
いて部屋へ入ってきた。「先生、L夫ちゃんの飛行機、輪もつい  
とるに」という。その声でレースごっこの女児二名も先生のいる  
製作コーナーへきた。そこで、できたら、お店屋さんごっこがし  
たいと思ひ、六名の幼児で話し合つてみることにした。

教師「こんなにたくさんいいものができたから、みんなでお店  
屋さんするといいわね。でもまだ足りないから、もつとつくらな  
い?」C子「お店屋さんって、おもちゃ屋さん?」教師「そう  
ね」C子「おもちゃ屋さんだったら、きせかえ人形売つとるに」  
教師「じゃ、それつくつたらどうかしら」C子「うん、つくろつ  
と、画用紙ちょうだい」と友だちのK子を誘つてつくりにかか  
る。D子「先生、私ね、昨日お母さんとケーキの注文に行つてミ  
ルキーかつたら、おまけにかわいいゆび人形が入つてい  
たに、そんなのをつくつてもいい?」教師「それもいいわね」L  
夫「ぼくは双眼鏡がほしいのだけだなあ」といいながらマーブル  
チョコレートの筒を一本手にもつて、もう一本ないかさがしてい  
る。みあたらないので、D子E子がつくりだしたゆび人形を一緒  
につくりだす。どんなゆび人形かきいてみたら、一本の指にはめ

るだけのゆび人形だというので、はめるところの筒をあまり太くすると、上手に使えないことを注意してつくりはじめた。

いろいろのものをつくらせたいが、幼児たちのつくっているものは自分が欲しいと思っているものが中心であるらしい。「画用紙がたりなかったら、ここにありませんよ」といっておいて、レーズごっこが女兒二名ぬけたので、そちらへいってみた。

レールセット

レールセットで遊んでいた幼児四名が仲間に入って、遊んでいた。順番に役割を交代して遊んでいる。「僕が走る時、次のＡちゃんが用意スタートっていうの、そして審判は僕の前に走ったＦちゃんがしてくれるの。優勝したときは審判の子が輪をくれるの。そして僕が走ったら審判になるのってきめたの」と自分たちで話し合ったことを教えてくれる。スムーズに役割の交代がなされて遊びが展開している。Ｆ夫が入場券渡しを一人でひきうけていた。せっかく自分たち同士で話し合って役割をまわしているのだから、教師は遊びに入らないで見ていることにした。

一〇〇〇一〇・三〇

製作

なわとびをしたり、リレーに声援をおくっていた幼児四名が、色紙がほしいといって、レーズごっこの教師のところへきた。

Ｌ子「先生、私、もうよくとべるようになったに」とうれしそ

う。「よかったね」Ｌ子「先生くじびきつくから色紙ちょうだい」「はい」といってやると、四名が色紙に○×をかいて、友だちにひかせては「あなた○」「あなた×」といっているだけなので、お店ごっこの品物の種類をふやすために、この幼児たちを誘ってみることにした。そこでこの幼児たちのそばへいって「こんないいものつくれましたよ」とゆび人形をはめて、みせてやりながら「あのね、Ｋちゃんたちね、おもちゃ屋さんごっこするっていって、こんなかわいいゆび人形や、きせかえ人形つくっているのよ。あなた方も何かつくってみない？」と話しかけてみた。

Ｆ子「おもちゃ屋さんなら、いろんなものを、いっぱい売っているに」教師「そうね、いろいろあるわね。どんなものを売っているか知ってる？」Ｆ子「おもちゃのハンドバック」Ｗ子「歩く人形」Ｖ夫「ウルトラマンのお面」Ｗ夫「鉄砲」Ｖ夫「赤ちゃんのおもちゃ、僕の家のおもちゃが生まれたとき、おばあちゃんと、ガラガラって音のするの買いに行った」など口々にいう。

教師「じゃ、つくってみたら？」Ｆ子「おもちゃのハンドバックつくろうつ」といって「Ｗちゃん、あなたもつくるやろ？」Ｗ子「うん、つくろうか、Ｖ夫ちゃんは何つくるの？」Ｖ夫「何つくろうかなあ」と考えている。

Ｆ子「先生、鉄がいるから、もってくるわ」といって鉄をとりに行き、材料おき場でＦ子とＷ子が、画用紙の選択をしているのかと思ったら、色紙をとりだすので、画用紙だと大きくて、もよ

うがかけることを助言すると、さっそく、画用紙をとりだし、つくりにかかる。F子ら二名はつくりたいものがすぐに決まったが、あとの二名が決まらない。教師「さあ、何をつくろうかなあ」と画用紙にさわり、半円形に画用紙を切って、円錐形にしてみたら、横で何をつくろうかと考えていた二名が「あっ、帽子になる、帽子つくろう」「先生、帽子つくってもいい？」教師「そうね、帽子になるわね」「もようをマジックでかいて、つくろうか」と相談している。教師「そうね、マジックでかくときれいでもいいわね。色紙を使ってもよいにしてもいいわね。きれいなお帽子だと、みんながかりにきてくれるわよ」と美しいものをつくってくれるとよいと思った。これでおもちゃの種類があき箱でいろいろつくってある他に、きせかえ人形、ゆび人形、カバン、帽子、と五種類できた。お面や、双眼鏡も幼児が興味をもっている品物だから、後からでもつくれるだろう。

#### リレー↓花づくり

バトンリレーの幼児がもうやめたといつて部屋へ入ってきた。

「水色組が勝った」「そりゃ、男の子が多かったもの」といいながら製作コーナーへきて「何をつくってるの？」ときく。女児五名が教師のそばへきて「お花つくってもいい？」とお花つくりをとくいとするA子がきくので「いいわね、お花屋さんができるわね」A子「たくさんつくってお花屋さんしようか」と、B子やC子に誘っている。C子「先生、色紙で作ってもいい？」教

師「そうね、色紙だったら、きれいなお花がつくれそうね」「じゃ、つくろう」といって鉄をもち出し、五人が一つの机にかたまつてすわった。色紙や割ばしを、花つくりのグループの机の上に出してやると、自分で色紙の色を選択しながら、それぞれの色紙をもちだし、つくりはじめる。

#### リレー↓ニューイロハとブロックキャップ

同じくバトンリレーで遊んでいた男児六名のグループは、部屋へ入ってきたが、製作コーナーでつくろうともせず、見ただけで、すぐニューイロハとブロックキャップの場所へいき、飛行機をつくりだした。このグループは、いつもウルトラマンの怪獣ごっこをはじめるので、とっても気になる。というのは、ニューイロハでつくった飛行機が上手にバラバラと散ってこわれるので、一層ウルトラマンごっこのおそびに発展するだろうし、そのおそびには、幼児たちの工夫や、発展もみられ、何となくやめさせることをためらうことが多い。そして、お花屋さんごっこにも参加してくれそうにもない。今日は一度一緒に遊んでみようと思つて、制作しているグループには「たくさんつくってね」といっておいて飛行機をつくっているグループに参加してみることにした。

一〇・三〇—一一・一五

#### 怪獣ごっこ

さかんに飛行機をつくり、一人で何機もつくっている。二名の



幼児が飛行機をつくれたのをそのままにしておき、大つみ木で基地だといつてつくりだす。教師は飛行機をつくっているところへ入り、怪獣ごっこを一緒にするように話し合った。教師も怪獣になるといえば「エビラ？ エビラだったら何十万トンという強い力もつとるで、ウルトラマンでももてやしないなあ」とN夫がいう。教師「そうね、じゃエビラになるわ」N夫「ほんでもなあ、ウルトラマンがシューシュー光線をあてると、縮むのやに、大きいのを小さくしてもつのやもんなあ」N夫がトランシーバーを空箱でつくりだすので、教師「先生もトランシーバーがいるのね」N夫「先生は怪獣だから、いらないよ」K夫「先生、怪獣はここから出てきてね、シューシューと光線をあてられたらとけるのやに」N夫「ちがうわ、先生はエビラだから縮むのやぞ」といい合っていたら、基地をつくっていたU夫「僕今日もハヤタ」という。S夫「何や昨日も、ハヤタばっかりしとって、ずるいぞ」N夫「じゃ、僕隊員やめて、エビラになる」S夫「僕ハヤタでもいいだろう」「うん」とみんなが返事している。S夫は片手を上にのぼし、胸をはってみせる。「地球をとられるで、戦争になるのだから、飛行機が何機もあるわ」といいながら基地に飛行機を並べだす。基地からは飛行機を片手に、片手にトランシーバーをもつて、とび出す。基地にのこっているN夫とS夫がトランシーバーで応答をはじめ。教師はエビラになっていつ出ようか、それとも、もう少し応答をきいていようかと思っていたら、S夫が「怪獣が

出てこないであかんわ」といいながら、自分でアナウンスのように「エビラ、エビラが出てきました」という。エビラのU夫はそれをきいて、出ていく。一緒に教師も登場していくと、エビラの姿をみつめてS夫は片手をさっと上げ、ウルトラマンになる。まわりにいた隊員の幼児たちは真剣な顔で「ウルトラマンだ」とさげぶ。U夫のエビラとS夫のウルトラマンがひっくるみ合いをし、U夫、だんだん身体を小さくかがめていく。ひっくるみ合いが危ないと思つてみると、両方がかばいいいながら、上になり、下になりしている。両方がのびてしまったようなかっこうでおわる。「先生は鉄砲でやられたんやに」と他の隊員にいわれ、倒れてやる。隊員がウルトラマンをたすけおこし、基地までつれてかえる。基地にもどった隊員は、隊長に、報告する。すぐく団結が固いのでびっくりする。この間、S夫が怪獣ごっこをしている時、他のことをさせようと、さそつたが、今はあかんわ、一人やられたで、僕がたすけやんならんで、といった気持ちか今になってわかる。やっぱり、幼児たちと遊んでみなければ、それらの幼児のもっているいろいろなことがわからないなあと思つた。

レースごっこの幼児四名は帽子つくりとカバンつくりへと参加している。帽子の紙で三角形のカバンも作っている。

怪獣ごっこのグループで、どうして怪獣がすきなかと基地にすわつて話し合つてみた。口々に「ぼくは怪獣はええかっこしとるし、強いですき」「ぼくはな、本当に怪獣が出てきてほしい。そ

したら、ハヤタになってたかうんや」「ぼくは怪獣ばかり集めて、怪獣動物園つくるわ」というので「怪獣動物園つくったら先生も見に行きたいなあ」「ひちゃん今から粘土で怪獣つくろうか」とN夫がいいだす。「じゃ、大きいつくるといいわね」と教師は園用の粘土をたくさん出してやると、みんなは基地をかたづけて、輪になってすわり、「ぼくはゴメス」「ぼくはネロング」と、それぞれいい合いながらつくりだす。こんなに怪獣に憧れや夢をもっているのなら、他の材料も用意して、怪獣動物園をつくらせてやりたいと思ったが、今日はまだ用意がないので粘土だけでつくらせた。教師と一緒につくりだしたら、「先生、こんな帽子ができたに」とかぶりながら、二名の幼児が製作コーナーから見せにくる。マジックできれいなデザイン的なものもようをかいている。もう一人は色紙で立体的な飾りをつけている。「とっても美しい帽子ができたのね」とほめてやると、二人の幼児は喜んで、エースオブダイヤモンドのリズムを口ずさみながらスキップでとんだり、おどったりしている。教師は怪獣つくりをはじめた幼児六名に「いろいろな怪獣を大きくつくったり、おともだちとなかまでつくってもいいわね」と話をしておいて、フォークダンスのレコードをポリリウムを小さくしてかけてやると、帽子がつくれた四名の幼児が部屋のみみでおどりました。

### 花づくり

一方ではお花がたくさんつくられている。つくるのに満足した

二名の幼児がお花屋さんをはじめている。ダンスをして遊んだり、お花を買いに行ったりしている。まだつくっている幼児の邪魔になるので、お店ほもっとちがった場所を設定させたいと思い、教師が机を並びかえていると、「こっちでお花屋さんするわ」と教師が並べた机の上でできたお花を運んできて並べる。C子「Aちゃん、棚のかわりにつみ木もってきて」とたのみ、お店をつくりだす。教師は値段の話し合いをしようと思ひ、「お花はいくらですか」と、一本の花を手にしてきいてみた。A子とC子が、10円にしようかと相談して、「一本十円です」という。みんながかいにきてもよくわかるように値札をつけた方がよいのじゃないかと提案した。「私『十えん』ってかいてくるわ」といって画用紙を小さく切った紙に『十えん』と、値札ができた。「お花欲しいんですが、お金がないからどうするの?」ときいてみたら、A子は「先生、紙に100円とか10円とかかいてつくってきえてくれない?」とたのみ。この幼児はお金をつくっているより、売ったり買ったりしている方が楽しいのだからと思ひ、教師がお金つくりをはじめたら、レースごっこをかたづけて教師のところへきたT夫ら三名がお金つくりを手伝ってくれる。この間におもちゃ屋さんも店をつくり、売買ごっこがはじまりだした。おもちゃ屋は品物が多いから、どう並べているか気になったのでお金つくりを三名の幼児にたのんでおいて、おもちゃ屋へいって見た。

### おもちゃ屋

机を三個並べてその上に、カバン、帽子、きせかえ人形などつくられた品物が平面的にただ並べられているだけなので、もう少しきれいによく見えるように並べましようとするので、もう少し緒につみ木をはこび、立体的に並べられるように工夫させた。つみ木にきせかえ人形の箱をたてかけたり、カバンをたてかけたり、紐をはって、つるしたり、とっても楽しそうに配置した。ゆび人形も、男の顔、女の顔、動物の顔などに分類して、箱に入れ、一番こまかい品物なので、前方に出して並べるなど、話し合いながら、お店の準備ができたが看板がないことにだれも気がつかないので、「ここは何屋さんですか」ときいてみたら、「おもちゃ屋です」「お店に看板がないから、帽子屋さんかと思ったわ」と帽子を手にしていえば、「それは、おもちゃの帽子です」という。「じゃ看板を出さないと、何屋さんかわからないわね」「僕、字よくかくで、かいたるわ」とH夫がマジックと色画紙をもってきて、「おもちゃや」とかく。ピンではりつけてやると、四名の幼児が売手になる。六名の幼児は自分のつくった品物を手にして、「これください」と売買ごっこが始まる。値段の話し合いがしてなかったと思ってみていると、売手が勝手に自分で値段をつけて、「二百円です」とかいて売っている。買手の幼児もそれはないとくして買っているから、別にみんな値段をきめる必要はないが、もし、幼児の中から、きめなければいけないということがおこってきたらそのときに話し合えばよいと思った。お金づくりの

子からお金をもらって来ては売買している。お花屋さんの幼児がおもちゃ屋さんの看板をみて、私たちもつくりようということになったが字がかけないというので、教師はお花屋さんの看板づくりを手伝ってやる。品物がなくなってきたと思うと、D子O子はつくれただけずつ店の方へ運んでいる。おもちゃ屋の方も品物がなくなってきたが、売買の方が、たのしくなってきたので、品物はもうつくりようと思わない。今日は売ったり買ったりするだけの役割遊びにしておこうと思った。こわれてきた品物は売れ残るので、その品物を修繕して売るようにさせたが、まだ品物がたりないので、売った品物を戻してもらって、おもちゃ屋の店にまた並べ、こんどはちがった幼児が売手、買手になって遊んでいる。最初花屋さんになっていた幼児四名が、買手になり、おもちゃ屋でいろいろな品を買って来てお家ごっこをはじめた。

#### お家ごっこ・食堂

レースごっこを最後までしていた幼児二名も、お家ごっこに入り、食堂をつくってコックになって遊んでいる。買物をした幼児を食堂へつれていったりしている。きつと、買物を町へつれていってもらったときに、町の食堂へ入ったり、おみやげを買ってきたことを再現しているのだろうと思った。売ったり買ったりしているうちに品物が少なくなってきた。ゆび人形を買ってきた幼児はお家ごっこへ、指人形をさして、遊びにいったりしている。

最後には自分でつくったものを買って来てお家へもって帰った

いという要求が出てきた。そこで、持ち帰ることにして、明日はまた話し合って品物をつくり、お店の数もふやし、一層たのしくなるように発展させたいと思った。

「これじゃないから、お店ごっこできなくなってきたわね。また明日、いろいろつくって、お店ごっこしましょうね。今日はこれでかたづけましょうね」と提案し、当番さんを中心にかたづけをはじめた。

#### 怪獣動物園

怪獣動物園はどうなっただろうと見に行ってみたら、「先生この首が折れるといけないから、割ばしが入ってるのやに」と二人がかりで大きな怪獣をつくっている。個人で一匹ずつつくったU夫らが小つみ木で柵をつくって、ここへ怪獣を入れるようにしようといっけて入れている。つみ木の板をおいて、その上に怪獣を配置しているのである。「まあ、すてきな怪獣動物園ができてきたね」「まだたらん怪獣があるのやに」「そう、でも、粘土がないから、明日はちがった材料でつくるといわね。今日はもうこれがかたづけましょう」といって粘土の入っていた箱を教師と一緒にかたづける。明日もきつといういろいろつくるだろうから、動物園に必要なもの話し合わせて、発展させたいと思った。

一一・一五—一一・五五

椅子と机をテラスに出し、リズム遊びができるようになったの

で、みんなピアノの前に集まってきた。音の高低あそびをしようと思っていたら「おもちゃ屋さんで買った帽子をかぶって、みんなでフォークダンスをしよう」とC子とA子の発言で、みんなが二人ずつ組みになり、エースオブダイヤモンド、わらの中の七面鳥をおどることにした。それから高低あそびをした。高低あそびは、あらかじめ高い音と低い音をきかせておき、その時の動作を考えて、約束して、あそんだ。

(くわしいことは紙面の都合上省略)

今日帽子がつけられなかったN夫が、「先生、僕あんな帽子、明日つくるに？」というので、明日の朝、登園してきて、すぐつくれるように、材料を用意しておいてあげてお話を話します。

一一・五五—一二・四〇

おべんとうの用意、おべんとうをいただく。

一二・四〇—一三・一五

食事がすんでからの遊びは、室内より室外の方がさかんであった。リレーがはじまったので、教師も仲間に入り、組みわけを話し合いながら、遊んだ。ジャングルジムでおにごっこをしているので、危険のないように注意する。

一三・一五—一三・三〇

帰宅の準備、明日もいろいろな品物をつくってお店ごっこをやることを話して帰る。

### 三、反 省

① 今日はできたら、お店屋さんごっこをみんなでしようと考えていたが、今日が一日目であるため、幼児たちは、それぞれ各グループで、昨日からの遊びのつづきを展開している。各グループでよく話し合って、目的をもって遊びがなされているから、今日中に学級全体の幼児がお店ごっこに入らなくともよいと思った。

例えばレースごっこのように、その遊びの中で、ねらいとする役割が守られ、交代がみられ、一層たのしく複雑な遊びとなつて発展しておれば、その遊びを大切に機会があればお店ごっこの話し合える場をとらえようと思った。

② 登園してきて、自分のしたい遊びを目的をもって遊んだ後、つぎの遊びを何しようかと困っているような幼児、五、六人が集まったのを機会に、お店ごっこの話し合いにもつていったことや、製作をとくいと作る幼児から他の幼児への刺激で、幼児たちが、目的をもって、次の遊びへ発展させる話し合いの場をもち、その話し合いによって、ひとりひとりの幼児が充分活動できたということは、五、六人という、話しやすい人数であったことがよかつたと思つている。また話し合いは大切なことだと考えさせられた。

③ 最初の日であつたから、製作に使われた材料は画用紙類がほ

んどんであつたが、もっとお店の種類もふえてきたら、それに適したいろいろの材料を使用していきたいと思つた。

④ 製作過程においては、グループの人数はそう問題と思わなかつたが、売買ごっこに発展したとき、最初の日でもあつたのであるが、売手だけの役割だけだつたから、なおさらであらうが、人数が多すぎて、ひとりひとりで充分に売買ごっこの活動ができず、少々困難をきたすところもあつた。もっと売買ごっこでの役割というものについて考えてみなければいけないと思つた。製造グループ、包装する人、お金を払う所、など話し合いによって分化させていけば売買する場面もスムーズにいくのじゃないかと、明日への反省としたいと思つた。

⑤ また教師の計画していることに、なかなか入りにくい幼児をどうするかいつも気になる。今日でも、怪獣ごっこのグループは、お店ごっこにあまり興味を示さなかつた。このようなどき、やはり教師は、仲間に入り、遊ぶことによつて、それらの幼児のもっている何かを知り、その内面にある夢や、憧れを満たしてやることによつて幼児の活動を一層発展的なものとしなければいけないと思つた。怪獣動物園の夢を満たし、たのしく遊んだのちに、きっと、お店ごっこへも入ってくることを信じている。

⑥ リズムあそびは、とつてもたのしく、喜んで遊んだ。T子も心配したほどでもなく、元氣よく遊べたので安心した。

(四日市市立海蔵幼稚園)